

ちよっぴ
ひといき...

茶ぐわくゆんたく

148 

『普天間本町通りの今と昔』

上の写真は、1956(昭和31)年頃の普天間本町通りの写真です。当時、この通りには日用雑貨店が立ち並び、映画館(スカラ座)もありました。

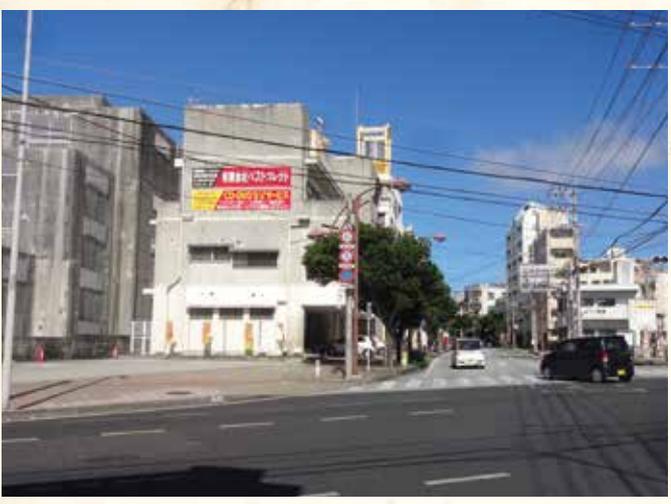
戦後早い時期に普天間一区には繁華街が形成され、その中で南側に位置する本町通り沿いが賑やかになっていきました。やがて普天間大通りから西側が解放されると、本格的に都市計画が進められていきました。

いわば、本町通りは、普天間一帯が発展するきっかけとなった場所でした。衣料品店や書店、薬局などの日用雑貨店、玉突き場や喫茶店などの娯楽施設も立ち並び、地域の人はもちろんの事、近隣市町村からの買い物客で賑わっていました。

下の写真は、現在の本町通りです。今では映画館はなくなり、お店も少なくなりましたが、普天間小学校があるため習い事教室や住宅が増えています。中央通りから本町通りを見ると、日本を代表する画家であり彫刻家の故山田真山氏が、沖繩平和祈念像を制作したというアトリエ跡を眺めることができます。散歩するのにちょうどいい通りになっています。



1956(昭和31)年 普天間本町通り(写真集「ぎのわん」より)



2016(平成28)年 普天間本町通り(写真左側建物がアトリエ跡)

【問合せ】市立博物館 ☎870-9317

はくぶつかんの部屋 ③③

ムラ・人を守る守護神、大謝名の獅子

大謝名の獅子舞は、災いから村や人を守ってくれる守護神として人びとから祀られてきました。

大謝名の獅子舞は、戦後長らく途絶えていましたが、1976(昭和51)年に復活し、現在は年に1回旧暦8月15日の豊年祭に行われています。当日は、有志の方々が獅子を拝んだあと、ムラの拝所で獅子舞の開催と集落の繁栄を祈願し、獅子舞と一緒に集落内の道筋をまわります。獅子舞を行うことを、「シー・シ・ケラシ」といい、大謝名の獅子舞は、「けんか獅子・男獅子」とも呼ばれています。その踊りはシンプルで、舞台の四方と中央で噛みつく動作を行います。この噛みつく動作は、獅子本来の魔除けの性質を表しています。また、集落の人びとは、獅子の姿を見たり触れることで健康な体になると信じて、競って獅子に触るようにしていました。このように、大謝名の獅子舞は災いからムラや人を守る守護神として人々から信仰をうけているのです。市立博物館では、夏の企画展「ムラを守る神々」を7月27日(水)〜9月4日(日)の期間で開催しています。人々の暮らしに根ざした御嶽や神々などを紹介します。ぜひ、ご覧ください。



▲2012(平成24)年撮影 大謝名の獅子舞
1989(平成元)年市指定無形民俗文化財に指定されました。

入館料無料となっておりますので、お気軽にご来館ください。